

留萌出身の27歳が米女子アメフトに挑戦

留萌市出身の吉田未央（よしだ・みお）さん（27）が、4月1日に開幕する米女子アメフトリーグ・WNFCに挑戦する。159センチ、57キロの小柄ながら、俊足とバスケットボールで鍛えたキャッチングが認められて、ユタ・ファルコンズのWBでロースター入り。本場の大型選手たちを翻弄するレシーブとランでチームを優勝させたいと張り切る。

WNFCは2019年に設立した女子リーグ。全米16チームが2カンファレンスに分かれ、男子のシーズンオフの4月から6月にかけてレギュラーシーズン6試合と8チームによるプレーオフでチャンピオンを争う。ユタ・ファルコンズは昨年準優勝の強豪だ。

留萌東光小で野球とスノーホッケー、留萌中、留萌高でバスケットボールに励んだ吉田さんがアメフトと出会ったのは、東京スポーツレクリエーション専門学校時代。トレーナーの実習でXリーグの東京ガス・クリエイターズに1年半通い、スタッフの一員としてプレーを間近に見て、その迫力にみせられた。「自分でやったらおもしろそう」と、専門学校卒業後に、19歳で女子チーム「東京ブレイズ」に入部した。翌年、「大阪ワイルドキャッツ」と合同でグアム合宿を行い、現地の女子チームと対戦。初のTDキャッチも決めた。「アウトへ5ヤードのパス。必死でキャッチし、そのままエンドゾーンまで駆けた」と言う。

グアム合宿で米女子リーグの存在を知り、「もっと上のレベルに挑戦したい」と夢が膨らんだ。まずは渡米資金づくりをと愛知県内の自動車部品メーカーで3年間、工場勤務をしながら、大阪の女子チーム、名古屋の男子チームに通って体力アップとアメフトの腕を磨いた。2021年秋にユタ・ファルコンズのトライアウトを受けるために念願の渡米。20人余りが参加したトライアウトでは、40ヤード5秒17のトップで脚力を披露し、DBと競り合っただけのパスキャッチも見せた。翌22年シーズンはビザの取得に手間取って参戦は持ち越しになったが、シーズン後の練習でアピール。23年シーズンは待望のロースター入りを勝ち取った。

3月31日に成田空港から渡米する吉田さん。大柄な選手とのコンタクトにも「わくわくする。楽しみ」と不安はない。試合では「オープンプレーで脚力を見せたい」と意気込む。そして「チームの優勝と、獲得ヤードの個人ランクでトップを取りたい」と大きな目標も掲げた。

【写真説明】

本場米国の女子リーグで活躍を誓う吉田未央さん

吉田さんは3月15日付のスポーツニッポン紙にも紹介されました。

<https://www.sponichi.co.jp/sports/news/2023/03/15/kiji/20230315s00040000116000c.html>

